

歴史をひも解く文化財の楽しみ方

# 真言八祖画像・十二天画像

市指定有形文化財・絵画  
東光寺（小船木町）



▲真言八祖画像のうち竜猛

## ◆一般公開

本画像は、毎年4月21日に銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像、木造阿弥陀如来立像などといっしょに一般公開されます。

日時 4月21日(火)  
10時～15時  
場所 東光寺(小船木町)



▲東光寺（小船木町）

東光寺には、室町時代前期（15世紀）の製作と推定されている「真言八祖画像」と「十二天画像」という20幅の掛軸があります。

前者は真言密教の正統な教えを引き継いだ8人の僧侶（竜猛、竜智、金剛智、善無畏、一行、不空、恵果、弘法大師）を、後者は十二尊の方位を守護する神々（帝釈天、火天、焰魔天、羅刹天、水天、風天、毘沙門天、伊舎那天、梵天、地天、日天、月天）を、繊細で華やかな表現で描いている優品です。これらの掛軸は、仏の位を継承させるために行われる「灌頂」という儀式の際、弟子に教義の流れ（法脈）を自覚させるとともに、修法空間を神聖に保つための役割を持つ重要な法具といわれています。

東光寺は寺伝によると、1232年浄土真宗の開祖・親鸞が船木郷の善阿弥という信者の懇請により阿弥陀如来を安置し、堂を建立したのが始まりですが、その後、真言宗に改宗しました。

同寺の八祖画像の表具背面に残されている墨書からは、1482年には寺で所有していたことがわかるため、このころには寺を中心とする一帯に密教の教義が広まったと考えられます。

現在も4月21日の正供市の際には、境内で大勢の信徒による大念仏講が行われます。一斉に唱和される御詠歌を背に掛軸を見ていると、真言密教の道場として各地から修行僧が集い、学問所としてにぎわう風景を思い描かせるのではないのでしょうか。

## 今月の表紙



話題の「布ぞうり作り」に挑戦  
いきいきシルバー講座

高齢者の生きがいづくりを目的とした「いきいきシルバー講座」が3月4日、市民センターで開催されました。今回は、いま話題の「布ぞうり作り」に挑戦。初めのうちはなかなか形が作れず苦労していましたが、ようやく完成した作品を手にも、参加した皆さんの顔から笑顔がこぼれました。

## ゆめ半島 千葉国体

銚子市は、高等学校野球(硬式)競技とトライアスロン競技を開催します。

2010年9月25日開催まで



(基準日2009年4月1日)

人のうごき 平成21年3月1日現在 カッコは前月比

■人口 71,774人(-48人) ■男 34,599人(-23人) ■女 37,175人(-25人) ■世帯 27,018世帯(+12世帯)

2月中の人口動態 ●出生 21人 ●死亡 59人 ●転入など 73人 ●転出など 83人